



写真:硫黄山 (撮影:平成26年5月24日)

「硫黄山」

霧島山で最も若い火山です。火口周辺警報が発表され、火口から約1 kmの範囲は入山規制となっています。

朝の冷気に冬の訪れを感じます。10月24日、気象庁は、えびの高原(硫黄山)に火口周辺警報を発表しました。火山性地震や火山性微動が観測されるなど、火山活動が活発になってきているため、硫黄山を中心とするおおむね1 kmへの立ち入りが規制されています。硫黄山は、霧島山で最も若い火山です。最近の研究によると16〜17世紀の噴火で形成され、1768年の噴火の際には、山体の脇の小火口から水蒸気噴火が発生したと言われています。小高い丘のように見える硫黄山では、溶岩が段々畑のように重なっている「溶岩じわ」などの地形を観察できます。山体は、火山ガスの影響により白く変質した岩石に覆われ、ミヤマキリシマやスキが生育しています。

硫黄山では、明治33年ころから昭和36年まで硫黄の採掘がおこなわれていました。かつては活発な噴気や温泉の湧出などが見られましたが、近年はほとんど見られなくなっています。

(文/えびのエコミュージアムセンター)

硫黄山

標高 1317 m、韓国岳の北西に位置する火山。火口内には、煙道など硫黄鉱山の跡が残されている。
 参考文献：霧島火山、えびの高原周辺における最近 15,000 年間の活動史 (田島靖久、松尾雄一、庄司達也、小林哲夫 2014)